

2025年度青山学院大学一般選抜（個別学部日程）

国際政治経済学部国際経済学科

論述・総合問題

【マーク式の正解】 □数字はマーク式の解答番号欄、丸数字は正解。

I	1	①	2	②	3	②	4	③	5	③
	6	①								

II	7	①	8	①	9	①	10	①	11	①
	12	①	13	①	14	①	15	①	16	①

【記述式の正解】

III	(1)	人口1人当たり耕地面積									
	(2)	1750年以前において、土地生産性が上昇したにもかかわらず、労働生産性が低下したのは、人口1人当たり耕地面積が、土地生産性の上昇を上回るスピードで減少したことを原因とするものであった。									
	(3)	一方、1750年以降になると、人口1人当たり耕地面積の減少が止まり、ほぼ一定となったため、土地生産性の上昇がほぼそのまま、労働生産性の上昇につながった。									
IV	必ずしも言えない。なぜなら、たとえば経済成長率の低下が原因となって男女間賃金格差の拡大という結果を引き起こしているかもしれないし、両者には何の因果関係もなく、第3の要因が経済成長率と男女間賃金格差に影響を与えて両者に相関が生まれているのかもしれないから。										